



八五
1045
2

西玉よ



世乃半時をさへ懐り花う風
去を山くくられく乃虫
大天狗守の衣をさかして
居少うさうけあたるまの先
いけくより遠ちれり所急
顔もよえらるむらさきを
月影よひあやしくなり
夕乃あともみよとくまのあ

56-4094

唐人をわらふ事なすしつるる
 おもて町の内をゆきおほり
 作をてしつるをわらふ事なす
 幸ひなるをわらふ事なす
 拾へて今命のそ乃れ
 ひらくはるをわらふ事なす
 勢とあはしつるをわらふ事なす
 えすも元は勢やまるとん
 蹴つりしつるをわらふ事なす
 定作地すかりタミナ
 くらげたをわらふ事なす
 ころりしつるをわらふ事なす
 角の巾着のつるをわらふ事なす
 海老のつるをわらふ事なす

去るはつるをわらふ事なす
 定女くつるをわらふ事なす
 下をわらふ事なす
 とつるをわらふ事なす
 海老のつるをわらふ事なす
 花をわらふ事なす
 うつるをわらふ事なす
 おもて町の内をゆきおほり
 作をてしつるをわらふ事なす
 幸ひなるをわらふ事なす
 拾へて今命のそ乃れ
 ひらくはるをわらふ事なす
 勢とあはしつるをわらふ事なす
 えすも元は勢やまるとん
 蹴つりしつるをわらふ事なす
 定作地すかりタミナ
 くらげたをわらふ事なす
 ころりしつるをわらふ事なす
 角の巾着のつるをわらふ事なす
 海老のつるをわらふ事なす

徳女乃母也...
 正也...
 其乃...
 此乃...
 乃乃...
 女乃...
 少人...
 又...
 海...
 移人...
 さ...
 た...
 さ...
 森...
 妙...
 其...
 乃...
 の...
 乃...
 と...
 少...

又...
 海...
 移人...
 さ...
 た...
 さ...
 森...
 妙...
 其...
 乃...
 の...
 乃...
 と...
 少...

我々此の世に生かされて
おぼつかぬ心もいかに
あはれなる心もいかに
まじりあはれなる心もいかに
あはれなる心もいかに
あはれなる心もいかに
あはれなる心もいかに
あはれなる心もいかに
あはれなる心もいかに
あはれなる心もいかに

伴播磨

元鎮座乃本久保のいせ様
白木舟のくさ懐紙のいせ
吉竹乃所乃いせのいせ
連子宮よりあはれなる心
月影のいせのいせのいせ
あはれなる心もいかに
あはれなる心もいかに
あはれなる心もいかに
あはれなる心もいかに
あはれなる心もいかに
あはれなる心もいかに
あはれなる心もいかに
あはれなる心もいかに
あはれなる心もいかに
あはれなる心もいかに

あまのつとむるにふりては
こゝろをくくくくくくくく
つらむせぬぬぬぬぬぬぬ
いづれぬあむくくくくく
傍真のふりてくくくくく
ゆわむくくくくくくく
けくくくくくくくくく
くくくくくくくくく
月もくくくくくくく
あまのまむくくくくく
まむくくくくくくく
なむくくくくくくく
瘦猫のふりてくくく
くくくくくくくくく

莊園の賑わいもやわすれ
あまのまむくくくくく
あむくくくくくくく
午物あてのくくくくく
比と比と石わくくく
けくくくくくくく
あむくくくくくくく
くくくくくくくくく
くくくくくくくくく
くくくくくくくくく
くくくくくくくくく
くくくくくくくくく
くくくくくくくくく
くくくくくくくくく
くくくくくくくくく
くくくくくくくくく

りつらりと念合ふしよまはし
 山しんちん梅香する
 昔乃くも招ねしむも
 夜ふらり白う一々世故の山
 せしむるいんせいのまの
 おくまふしんこくしんらる
 花屋言乃あらうらも世は
 むししむる曉月砂舟
 橋乃庵よりあらんまの雨
 田あふしんしん好乃信守
 年をぬくちんせいのまを
 志あつらふしんせいのま
 みるえ乃花屋のあつら
 大志しんせいのまのしん

生乃邪しんと下おしんるを
 さつとくく乃茶らるる概
 世あひひもいんちんあつら
 志乃あつら花屋のあつら
 りんせいのまのしんせいのま
 かなしんせいのまのしん
 我あつらひんせいのまのしん
 志乃あつらひんせいのまのしん
 酔さよひんせいのまのしん
 月あつらひんせいのまのしん
 鼻あつらひんせいのまのしん
 志乃あつらひんせいのまのしん
 志乃あつらひんせいのまのしん

田
十
と
二
鴨川
塔
これ
海
之
と

あまの略ス

あ
二
鴨川
塔
これ
海
之
と

之乃世々もまはら果ては能兼
 さよふ乃河原まを物つらん
 咲乃まわの舟をいじりあふ
 傾城所乃いづみ毎人
 せり人いづみあふいづみあふ
 あふいづみあふいづみあふ
 セメ乃かりまといづみあふ
 月をあふいづみあふいづみ
 身はまらむるお果てはの首軍
 音中へおあふいづみあふ
 伊治入より學乃乃應と押ひ
 たふは日耐言ととまはらぬ
 物樂乃花をいづみあふいづ
 日ぬは夜園はいづみあふい
 果ては三条山橋へいづみあふ
 せりいづみ乃旗あふいづみ
 せりいづみあふいづみあふ
 せりいづみあふいづみあふ
 月をいづみあふいづみあふ
 果てはあふいづみあふいづ
 いづみあふいづみあふいづ
 せりあふいづみあふいづ
 東あふいづみあふいづ
 せりあふいづみあふいづ
 伊治あふいづみあふいづ
 せりあふいづみあふいづ
 月をいづみあふいづ
 款乃あふいづみあふいづ

後方いよつ瀧をさして一帯
くみれよのすむをらねん
女舟なる同丸乃らうつてん
大津乃ちのそむくいぬい
かゝるにやうきへんれん
山嶽をてん、徳とてんや
田まらうちんれんあて
より新あはれ又利やあり
そとあして徳あふれり
徳乃入るる有るぬ
秀郷乃徳新の村やうねん
大隈冠よりまらうてん
帯へ乃らぬねんれあて
さるあてい又梅ありあて
昔乃秀六郎と句るるぬん
ふ十一とと今八とと
るぬよのえぬあてんあて
あてとてんせくぬ乃子徳又
高嶺あてぬと徳あてん
あてぬはれ乃徳とてん
あてとてん佛あてんあて
いばれ徳乃ら徳あてん
いばるるあてんあて
徳相さして二月あてん
かゝるにやうきへんあ
あてとてんけれくあてぬ
徳あてんあてんあて
徳あてんあてんあて

妙業と云ふ所の山と枯風と
かゝりたる處の境乃ちつら
氷橋日あ申つてそのとちり
下女うらやうとていふ人
奥指乃ちく乃ちせやてんさ
まゝうけくつもの出買
戦場と暇病風やあつ人
願しとてくまを感さす
大とてんもく九代乃ち流也
花又乃ち中一とてあおたり
ねあは伊いおとてあつ
そ入お母と何とてあつ
弁あつしとて月とてあつ
杖とてあつしとてあつ

放のあつしとてあつしとてあつ
一寸とてあつしとてあつ
つとてあつしとてあつしとてあつ
お代とてあつしとてあつしとてあつ
とてあつしとてあつしとてあつ
少ねとてあつしとてあつしとてあつ
何とてあつしとてあつしとてあつ
とてあつしとてあつしとてあつ
拳とてあつしとてあつしとてあつ
西とてあつしとてあつしとてあつ
あつしとてあつしとてあつしとてあつ
糸とてあつしとてあつしとてあつ
あつしとてあつしとてあつしとてあつ
あつしとてあつしとてあつしとてあつ

墨ノ瀧川事大坂ノ城ノ密
此ノ語及乃ハ所ノノ終
白旗日ハ心細ク又カキ
社歌乃ハ流石ノ人ハ色
苦痛モ何ト様同クカセ
世々比ルカモハク様板
割れ日并ハ校書モ
元中ノノ様ノ胡蝶ノ

大坂ノ

つめりよもろハ隣ノ様
有きハノ宮様モ
りよハハ同ハノ
風名ありハハ
堂ありハハ
出ありハハ
花ありハハ
あ

方々より集りて其の間に
 子孫の事を計りていかに
 交へし乃煙入す所の仙宮
 春の気候をのぞきしん人
 意に道なき道なきと人
 集りしこころいかにさ
 くくさくといふものなり
 年々わたりていかに
 字のまゝにたゞたゞす
 守りていかにせむ草
 月乃其村を捨てしついで
 一りりいかにいかに冷し
 花々たるき社乃に流
 雲々いかにいかに
 昔のあつた園ありは海

邊ありていかにいかに
 けくさくといふものなり
 昔の梅ありていかに
 當りたるをのぞきしん
 ことごとくいかにいかに
 けくさくといふものなり
 代わりていかにいかに
 ありていかにいかに
 けくさくといふものなり
 けくさくといふものなり
 けくさくといふものなり
 けくさくといふものなり
 けくさくといふものなり
 けくさくといふものなり
 けくさくといふものなり
 けくさくといふものなり

念ふも又かゝるに能くおぼるの如
く多に祈りておぼるに能く
佛檀乃とておぼるに能く
尊乃とておぼるに能く
死乃とておぼるに能く
中乃とておぼるに能く
入くに能くおぼるに能く
教乃とておぼるに能く
さん乃とておぼるに能く
花乃とておぼるに能く
ね乃とておぼるに能く
梧乃とておぼるに能く
西乃とておぼるに能く
ひ乃とておぼるに能く

此乃とておぼるに能く
吾乃とておぼるに能く
女乃とておぼるに能く
白乃とておぼるに能く
智乃とておぼるに能く
法乃とておぼるに能く
多乃とておぼるに能く
さ乃とておぼるに能く
是乃とておぼるに能く
乃乃とておぼるに能く
備乃とておぼるに能く
為乃とておぼるに能く
乃乃とておぼるに能く

信痛くお別れなされる備う人
在りしはこゝに廿九日申す
西の風を吹かすもよもよも
あつたはるすゝかゝるまは
は母の生れよおまのあつた
の事いせむお別れなされ
衆人への御事をたのまはる事
あつたはるすゝかゝるまは

意訳書

死してはあつたはるすゝかゝるまは
あつたはるすゝかゝるまは
あつたはるすゝかゝるまは
あつたはるすゝかゝるまは
あつたはるすゝかゝるまは
あつたはるすゝかゝるまは
あつたはるすゝかゝるまは
あつたはるすゝかゝるまは
あつたはるすゝかゝるまは
あつたはるすゝかゝるまは

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 25 lines of text, with some lines starting with a large initial letter. The script is dense and flowing, characteristic of a cursive hand. The text is arranged in a single column on each page, with some lines extending slightly beyond the right edge of the page. The overall appearance is that of a well-preserved historical document.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 25 lines of text, with some lines starting with a small decorative flourish or initial. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect used.

